

コースプランナー解説

岡本 耀平

■WS

結果（入賞者のみ）：

1	前之園 知江	1:22:30	京都女子大学3
2	松井 美音	1:23:05	京都女子大学3
3	熊野 ひとみ	1:26:40	京都女子大学3

総評：プログラムにも記載したとおり、本戦における学連枠の獲得を目安としてウイニング設定した。実際には70分程度でも通過可能かとも思われるが、80分を超えるようでは厳しいだろう。全体的に難易度は抑えたつもりであるので、しっかりと復習をしてほしい。特にこれから学生の上位層を目指す者は、上に述べたタイムを上回るには自分に何が必要なかをじっくりと考えていただきたいと思う。

【括弧内はレッグ難易度：WS/WOである。赤字は150以上の数値】

△→1 (33/110)：次の1→2に備えてもらうためのごく簡単なレッグである。

1→2 (352/136)：最初の勝負ロングレッグである。ルートとしては大きく分けて、レッグ線左の尾根上の不明瞭な小径を辿るもの・南に脱出して池の横を通り、3番道を辿るものがある。ここでは自分の能力に応じたルートを選択すべきだが、想定ベストルートはもちろん前者である。また、ポストが円内の小道から見えないことも把握しておく必要がある。(なお、池の北西から東にある鞍部を越えて3番道に辿るというルートもある。このルートが見えた人は何人いるだろうか。)

2→3 (25/66)：2→3、3→4ともに小径は用いずにほぼまっすぐ進むのが想定ベストルートである。どちらも基本的な地形をしっかりと確認すれば平易なショートレッグである。

3→4 (101/45)：前のレッグを参照。

4→5 (68/131)：北側の山塊へ入るロングレッグの前の繋ぎレッグである。

5→6 (231/161)：これも北側の山塊へ入るための繋ぎレッグのつもりであったが、北側の山塊に入る際に手前の沢へ入ってしまい、大きくミスをした者もいたようである。ロングレースでは多少のミスは許されるとはいえ、10分以上は命取りである。ミスをしないことはもちろん重要だが、違和感を持った際に現在地を把握して復帰する練習も行うようにしたい。

6→7 (38/120)：やや難しめのレッグとして用意したつもりだったが、プランナーの意図に反する(≡喜ばしい)結果となった。

7→8(72/68):簡単なレグに見えるが、7からの脱出でミスした人はいないだろうか。給水所までしっかりと辿り着けば、8へのアタックは平易である。

8→9 (132/176):後半の勝負レグで、MEと共通である。ルートとしては大きく分けて、8ポの南東の広い沢をずっと行って9ポ北側まで伸びている4番道を目指すもの・レグ線前半の左にある沢を登ってその尾根を越え、その先の4番道を目指すものがある。想定ベストルートは距離の短い後者であるが、安全策として前者を選んだ人も多いものと思われる。

9→10 (46/78):こちらもMEと共通レグだが、もうすぐゴールだと気を抜いてミスした人もちらほらいるようである。

■MS

結果(通過者のみ):

1	松下 睦生	1:26:01	京都大学3
2	小菅 一輝	1:35:08	京都大学3
3	小倉 暢	1:35:59	京都大学4
4	鈴木 蒼	1:38:24	京都大学4
5	福井 直樹	1:40:48	大阪大学4
6	五百倉 大輔	1:41:22	京都大学2
7	坂口 祐生	1:42:38	大阪大学4
8	笠原 朋樹	1:43:05	関西大学4
9	糸井川 壮大	1:44:14	京都大学2
10	津高 剛	1:46:39	大阪大学4
11	堀 裕多	1:46:45	大阪大学4

総評:プログラムにも記載したが、MSに関しては本戦における入賞を目安としてウイニングを設定した。結果的にやや厳しいコースとなったが、現役の名大生がMOで80分を切ったことを考えると、MSでも82~83分は出てほしかったかなというのがプランナーの思うところである。勝負レグが幾つかあるものの、全体的にそれほど難しいコースではないため、ミスした部分はしっかりと反省して自分に足りないものは何かしっかりと考えてほしいと思う。

【括弧内はレグ難易度:MS/MOである。赤字は150以上の数値】

△→1 (44/57):次の1→2に備えてもらうためのレグである。ルートとしては△から尾根を辿るもの・レグ線上の尾根を右から巻くものがあるが、タイム差はそれほど出ないものと思われる。

1→2 (191/118):最初の勝負ロングレグである。様々なルートが考えられるが、想定ベストルートはレグ線すぐ横の沢を通過して1ポ付近の4番道から2ポへ続く沢の下に

ある4番道へ移るルートである。ただし途中オープンCハッチが存在するため、このルートを選択しなかった者も多いだろう。(実際にはオープンCハッチの横の植生界は通行可能) どのようなルートを選んだにせよ、現在地をしっかりと把握しながら大きなミスを犯さなかったかどうかが大変である。

2→3 (40/60): ここから先、ショートレグ・ミドルレグが続く。難易度としてもそれほど高くはなく、実際セレ通過者は概ねそつなくこなしている。

3→4 (49/45): 2→3 を参照。

4→5 (74/36): 2→3 を参照。

5→6 (55/58): 2→3 を参照。

6→7 (163/191): 第一給水手前に勝負レグをとということで用意した、尾根廻りのレグである。とはいえCPをしっかりと設定すればそれほど難しくはない。なお、京大大会で使用した範囲を極力使わないという意図があり、尾根廻りのレグは事実上このレグだけとなった。(試走段階では他にもあったが、諸事情によりボツとなった。)

7→8 (121/168): WEとほぼ共通なので割愛。

8→9 (121/166): 想定ベストルートは、8ポから沢を下り、そのあと給水まで続く沢を登る→北東方向の尾根上まで直進→そこから続く6番道を辿り、その後も道をつなぐ、といったものである。給水から9ポ西の4番道まで行き、そこから登るというルートも見え、実際には現地は地図上ほど急斜面ではないという報告もあるが、あまりそちらを選ぶのは好ましくないと思われる。

9→10 (82/70): 9→12 とやや簡単なレグが続く。若干地図が不正確な箇所が存在するが、競技にはそれほど大きな支障はなかったものと思われる。

10→11 (39/50): 9→10 を参照。

11→12 (135/133): 9→10 を参照。

12→13 (275/115): 後半の勝負レグとなったようである。13ポ手前の平らなピークで間違った方向に進んだ者や、そこに辿り着く前に主尾根を下りてしまった者が多かったものと思われる。疲れているときこそ落ち着いて、違和感を持った際にはしっかりとコンパス・地図をみるようにしたい。

13→14 (98/141): 直進すると結構藪く、下の小道を使ってもそれほど走りやすいわけではないため、ストレスが生じるレグだったものと思われる。直進しようとしてミスする者が多く難易度はあがると予想していたが、プランナーの意図と反する(≡喜ばしい...?) 結果となった。

14→15 (97/124): 簡単なので割愛。ちなみに一応給水を通らないルートもあるのだが、みえただろうか....

15→16 (109/186): WEと共通なので割愛。なお、優勝した松下はこのレグで2位と1分以上の差をつけている。

16→17 (96/71): WEと共通なので割愛。